



剣道錬士六段で、剣道歴50年を超える前沢さん。「防具クリーニング」の技術を確立後、店をその専門店に。全国の剣士の期待に応えている

汚れとにおいを解消

防具は「洗えない」「洗ってはいけない」「稽古を重ねたら、臭くなって当たり前」。剣道のそんな常識を覆した人がいる。秋田市将軍野で防具専門のクリーニング店を営む前沢孝司さん(69)。面、こて、垂れなどの防具は、汗や皮脂汚れを吸い込むと雑菌が繁殖して悪臭を放つ。しかし、水に弱い革や膠にかわ、色落ちの心配がある藍が使われているため、基本として「洗わないもの」とされてきた。

29年前、前沢さんが独自に開発したのは、防具を丸ごと水洗いして汚れやにおいを除去する技術。いまや全国の個人や学校から途切れることなくクリーニングの依頼が入る。「防具の中でも『こて』は手の汗で中がぬるぬるして特におう。でもクリーニング後のものはおわないでしょ？ 鹿革もゴワゴワせず、柔らかいですよ」と、仕上がりに自信を見せた。

町のクリーニング屋さん

〔前沢防具クリーニング専門店〕秋田市将軍野南3丁目7-8 TEL.018-845-0926

ブラシを動かすたび、シュツ、シュツ、シュツと響く音。
店舗裏手の作業場で黙々と防具の汚れを落とす。
剣道＝汗臭いイメージは過去のもの。「防具クリーニング」の
挑戦は秋田市の小さなクリーニング店から始まった。



イメージを変えたい

前沢さんは秋田高校時代にインターハイと国体で団体優勝、同社大学時代に関西学生選手権で個人・団体優勝を経験した剣豪でもある。29歳で大阪の会社を退職して家業のクリーニング店を継いだ。社に出で剣道から離れていたが、地元の子どもたちへの指導を頼まれて

久々に道場を訪れたとき、剣道特有のにおいが気になった。「子どもは保護者に言われたんです。『先生はクリーニング屋さんでしょ？』このにおい、何とかできない？」って。防具は高価ゆえに汗の染みだ1組を使い回す子どもも多い。体育で剣道が選択できる中学や高校では、学校所有の防具の共用を嫌う生徒もいる。おい問題は深刻だと感じた。「剣

道は臭い」というイメージを何とかして変えられないか」と思った。

防具職人の下で防具の制作工程を学んだほか、自身のものや母校の高校から譲り受けた古い防具を使って研究を始めた。洗浄方法や時間、乾かし方、色落ちや革が縮む具合など、実験を繰り返してデータを記録して丸3年。水洗いしてにおいや汚れを取り、3日以内に乾燥させることに成功した。その後、東北から九州までの防具店に営業にも出た。「防具を洗う。しかも水で……と聞いて『大丈夫なの？』と始めは誰も信用してくれませんでした」。においや汚れ以上に難敵だったのが「洗ってはいけない」という固定観念。時間をかけ、信頼を重ねて全国に先駆け「防具クリーニング」を確立した。



しっかり乾かし、受注から4日後には発送する

機械使わず手洗いで

店には連日、防具の入った段ボールが次々と届く。どんなに依頼が多

くても、一つ一つの状態や素材を確かめ、全て前沢さんが手洗いする。長靴にエプロン姿、ブラシを手に細部まで丁寧に汚れを落とす。気持ち良く稽古に励んでほしいと思いを込めて。「剣道は礼に始まり礼に終わる。あいさつ、礼儀作法や相手を敬う心、気力・体力が身に付く学びの場。剣道をやりたいと思う子が一入でも増えたらいいですね」

「洗わない」から「洗う」時代へ、常識を変えた剣士の爽やかな笑顔があった。



面縁は塗料で補修